

校歌（一中）

山口泰平 作詞

糠塚卯助 作曲

一． 仰げば高し弁が岳

三． ああ果てしなき海原も

千歳の緑濃きところ

雲にそびゆる高嶺も

眺めは広し那覇の海

渡るに何か難かたからん

万古の波の寄るところ

超ゆるに何か難かたからん

これ一千の健児らが

われに不断ふだんの努力ちからあり

競きおい立つべき聖天地

われに一如いちによの至誠まことあり

二． それ海南の一弧島

四． 建国二千六百年

世は濁浪の寄せくとも

栄光はえある歴史俤はえぶれば

自彊とことわの巖永久に

我らが本務つとめ軽からず

進取の船に棹さして

いで中山の健男児

たゆまず進めわが友よ

若き血潮のよどみなく

理想の岸は遠からじ

奮い励めよ国のため

校歌（首里高）

山口泰平 作詞

糠塚卯助 作曲

一． 仰げば高し弁が岳

三． ああ果てしなき海原も

千歳の緑濃きところ

雲にそびゆる高嶺も

眺めは広し那覇の海

渡るに何か難かたからん

万古の波の寄るところ

超ゆるに何か難かたからん

これ一千の学徒らが

われに不断ふだんの努力ちからあり

競きおい立つべき聖天地

われに一如いちによの至誠まことあり

二． それ海南の一弧島

四． 古城のほとり咲き匂う

世は濁浪の寄せくとも

文化の華を偲おもふれば

自彊とことわの巖永久に

我らが本務つとめ軽からず

進取の船に棹さして

いで中山の若人よ

たゆまず進めわが友よ

若き血潮のよどみなく

理想の岸は遠からじ

奮い励まん諸共に

凱歌

一. いざや歌わん諸共に

中山健児の勝利かちの意気

見よや我等が優勝旗

古城の下にひるがえる

二. 戦雲晴れて原頭に

微笑み立てる我が選手

君がかぎせる栄冠は

我が一中の誉れなり

三. 入相いりあいの鐘暮れてゆく

秀麗の地に健児あり

勤儉尚武の旗の色

千秋万歳とこしえに

敗歌 — 捲土重来の歌

一. 三度の計の空しさに

多感の健児星に泣く

今勝たずんばいつの日か

我に覇権をもどすべき

四. 富岳をかざる白雲は

我が一中の旗印

見よ咲き匂う桜花

二. ああ陰惨いんさんの若人よ

男子が涙仇ならば

これぞ我等がシンボルぞ

友よ正義を如何にせん

五. ああ原頭にすすり泣く

栄えある歴史を如何にせん

奥武山原頭我立てば

三. 光虚空ひかりこくうを貫けば

おおあめつち
大天地は微笑みぬ

歴史をかざしていざ舞わん

大地を鳴らすスパイクに

自由、開放、建設の

中山健児の意気見よや

見よ球陽

一・見よ球陽の青天に

真紅に燃ゆる梯梧花

集いし健児一千の

希望は高く咲き匂う

二・桜の匂う旗風に

めいもう
溟濛の雲払い去り

建設しゆく理想郷

健児の胸や誰が知る

三・仰げば緑の弁が岳

眼下にひらく瑠璃の海

ここに鍛えしこの腕を

示さん今日は晴の場所

四・歴史は移り人は去り

連勝ここに二星霜

永遠とわに覇権を握るべく

共に雄々しく進まばや

ああ中山の旗の下

一. ああ中山の旗の下

正義に起てる若人が
たぎる血潮の火と燃えて
染むる護国の旗の色
から紅を見ずや君
集う健児の意気高し

二. 若きが故に憧憬の

園に学びしこの誇り
生命よ永遠に若かれと
手を挙げ舞いて友よいざ
ああ感激に生くる児の
勝利は何に譬^{たと}うべき

三. それ濁流に魚住まず

秀麗の地に健児あり
文武の庭に生い立ちて
結びおきけん友垣や
六十年の東風吹かば
ゆかしく燃ゆる若緑

攻撃の歌

一．日頃鍛えし腕の冴え

打ち出す球は雷かいかずち

強襲撃破の心地よさ

飛び来る球に眼もくらみ

浮足立ちし敵の軍

打てや打て打て我が選手

二．一中選手の打つ球は

碎けて飛ばん猛烈さ

敵軍苦計の悪魔球

虚実を尽くして投げるとも

腕に覚えのバツテイング

こだまに響いてホームラン

一千の健児

一．一千の健児の腕は鳴り

声は奥武山動揺す

溢るる勇気を抑えつつ

待ちに待ちたる敵の軍

砕きて撃ちて奥武山の

礫つぶてとなさん時のまに

二．轟く声の音凄く

ふるえる旗も勇ましく

南海島の晴の場所

撃しき軍いくさは起りたり

正義の軍いくさに敵やある

真一文字に攻め落せ

創立六十周年記念の歌

一．歴史は旧き国学の

遠き流れを守りつつ

注ぐは健児一千の

至誠の生命火いのちと燃えて

紅き梯梧の花のごと

一中生我等国士たるを期す

三．大和男の魂に

やまとおのこ

文を磨きて武を練れば

往くとし可ならざるはなし

希望の翼広々と

大空渡る鷹ふだんのごと

一中生我等国士たるを期す

二．聖きよき古城のほとりなる

高き白亜の学び舎よ

六十年の伝統よ

誇りの眉にかぶりたる

帽子の線の白きごと

一中生我等国士たるを期す

四．広き東亜の夜明け前

南へ進む日本の

その只中に育くまれ

海邦養秀意たか気昂く

黒潮の湧きめぐるごと

一中生我等国士たるを期す